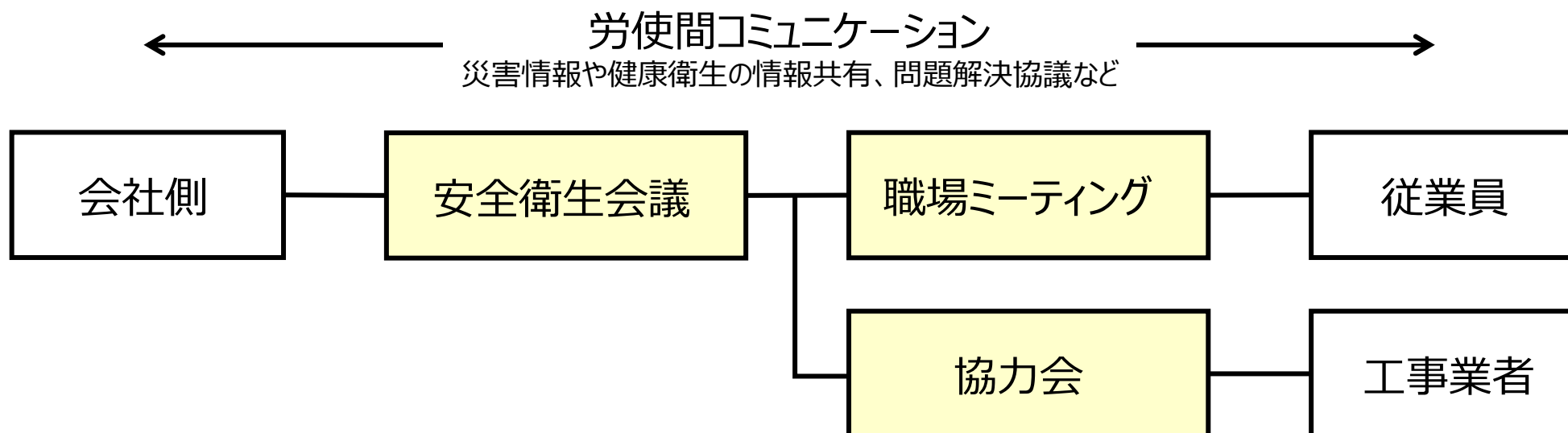


労働安全衛生の考え方

当社では、設備のハード対策だけでなく、組織文化における人や管理面に焦点を当てた活動を展開しています。これを「**安全文化醸成活動**」と呼び、以下 4 つの理念を掲げています。

- ① 作業者による**本音**（生の声）を聞き出すこと
- ② 作業者がリスクに対する**感性**を上げること
- ③ 管理者と作業者の安全意識を**共有**すること
- ④ 仲間に働きかけ**相互啓発**をすること



具体的な取り組み

当社では、独自性のある安全活動を行っています。

①動画による安全啓発教育とコンテンツの自社制作

映像で直感的に分かりやすい**動画教育**を行っています。
また、この動画を**自社で制作**しており、工場内の従業員が配役として出演したり、撮影現場も自社工程であったりと、世界で唯一無二のものになっています。身近な場所や人物が映像になることで、自分事として安全を意識しやすくなることを“ねらい”としています。

食堂の行列待ちでついつい見る



- 手待ちでついつい見る
- 多数の従業員に目に付く場所

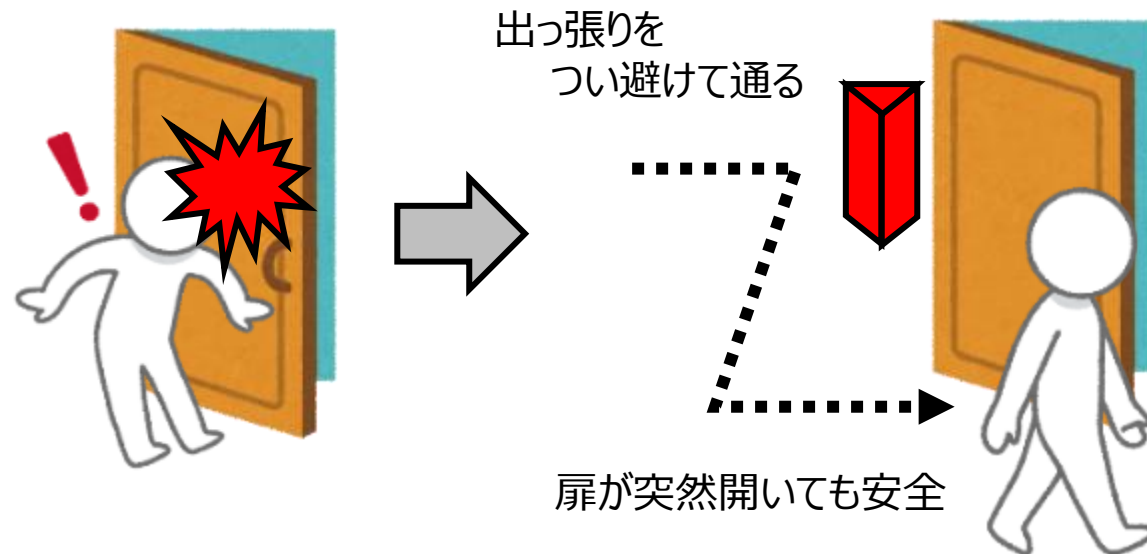


デジタルサイネージ活用

具体的な取り組み

②「仕掛け」による安全対策

人間の本能的な行動特性を利用した「仕掛け」を施すことで、安全な行動を促進する取り組みを展開しています。人間の自然な行動は、他から強制されることなく起きるので、安全行動が定着されやすくなります。



持上げ時の指挟まれ



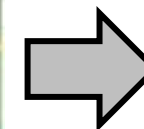
置き場段差でリスク解消



中央寄り幅が狭い



踏み外しリスク



表示で幅広部に誘導

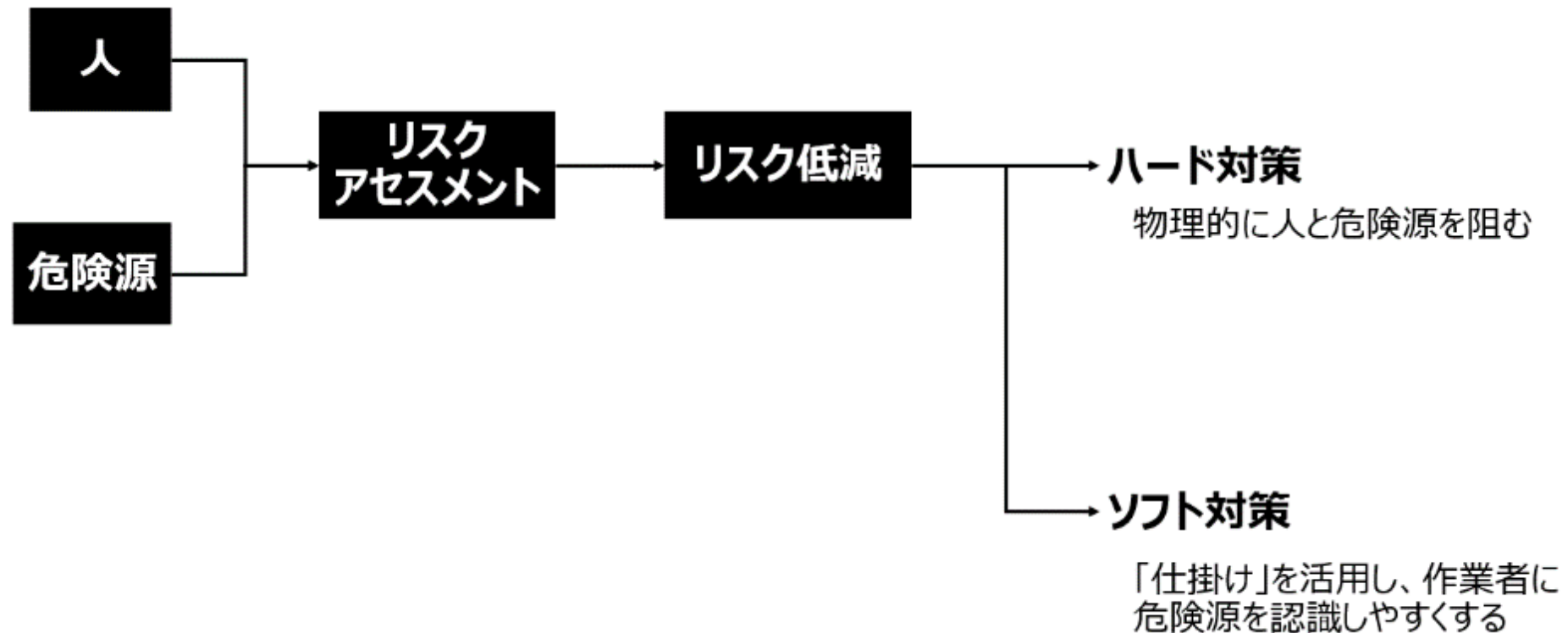
③危険体感研修の運用

安全意識を維持させるためには、危険を危険と感じれる感性が重要ですが、当社ではケガをすることなく、事故の恐さを体感することができる施設を保有しています。製造業における主要な事故、挟まれ、巻き込まれ事故に関わる体感はもちろん、高所からの墜落、フォークリフトとの衝突等については、VRを導入しており、最新の危険体感を行うことができます。



危険源の特定とリスクの評価

当社では、危険源を特定し、リスクアセスメントを行い、リスク低減に積極的に取り組んでいます。
全てのリスクについてハード対策で改善できることは理想的ですが、適宜ソフト対策も実施し、その際に「仕掛け」
（別途解説）を効果的に活用し、作業者が危険源を意識しやすいような工夫を取り入れています。



当社では、安心安全な職場を目指し、日々の安全衛生活動に努めています。

